

ご案内：アンラーニング・プロジェクト 08

資本主義を見限る

——生・労働・運動の現在と課題——

オープニング

日時 5月11日(日) 1:30～4:00

場所 サンフォルテ 305号室

● 「生・労働・運動」——これは、3つのことばをならべてみただけのことです。しかし、3つのことばの間にある「・」がどのように動くかによって、3つのことばの組み合わせは変化します。ここで「・」で表そうとしているのは、私たちの状況であるとともに、その状況と向き合う私たちの動き（ムーブメント）です。そのような意味での「・」を含めて、「生・労働・運動」は、いわば「発見的概念」とでもいうべきもの、つまり、さまざまな想像力を喚起し、さまざまな構想力を招きよせる装置のようなものです。——例えば、現状況の社会運動のありようを示すのは、それらのことばのどのような組合せであるかという問い、また、どのような組合せが、現状況の社会運動の課題を示すことになりうるのかという問いを、招きよせるというように。

世紀をはさんで強行されてきた新自由主義「構造改革」の累積が、いちじるしい雇用（就労）の不安定化—社会保障・社会福祉の縮減を引き起こし、私たちの「生の保障」がすさまじいまでに破壊にさらされていることが、だれの目にも明らかになりつつあります。そのような破壊に抗して、一方でこれまでの労働組合がつつみそこねてきたいわゆる「ワーキングプア」の中から、小さいけれども希望にあふれた「フリーター労組」などが次々に生まれつつあります。また、他方で、「生の保障」破壊にさらされている人々を横につなぐ「反貧困ネットワーク」が動き出し、昨年秋の「生活保護基準の切り下げ」策動に対して大きな反対の声があげられています。——これらの動きは、おしなべて、「保障されざる者」の「乱」とでもいうべきものですが、前者を「〈生〉・労働運動」、後者を「〈生労働〉運動」というように表示することができるのではないかと思います。あえて、既成のことばを使えば、前者は「社会運動的ユニオニズム」、後者は「『生の保障』要求者組合的社会運動」とでもいったらよいでしょうか。

● 「資本主義を見限る」——08年度の「アンラーニング・プロジェクト」は、一方で、昨年度の「アンラーニング・プロジェクト」で渋谷望・小倉利丸・平井玄さん等を招いて行った「ネオリベ的遠近法を超える——今、出来(しゅつたい)しつつあるアクション群——」をさぐる試み(*1)から、「生・労働・運動」の課題について、なにをくみ取ることができるかを整理しつつ、それをふまえて「生・労働・運動」を「資本主義を見限る運動」として立ち上がらせていくための要件をさぐることを試みます。——言いかえれば、今私たちの生きる社会では「賃労働によって生活を支える仕組みそのものが、人々の生の基本的な条件を満たせなくなっている」(*2)、と同時に、人々の生の「リスク」をカバーする社会保障の仕組みそのものが人々の基本的な「生の保障」を可能とすることができなくなっていることを、まさに「資本主義」というシステムを見限ることへと〈反転〉する営みとして、「生・労働・運動」を定立する条件をさぐることです。それは、上でふれた「〈生〉・労働運動」と「〈生

裏面もご覧ください

プログラム

- i. 見えてきたもの——07年度「アンラーニング・プロジェクト」から
 - ii. 「生・労働・運動」の現在
 - iii. E・アダモフスキ「反資本主義入門」を〈註解〉する
 - iv. 報告——見限りストリートの路上から
- 番外企画：「米騒動」から90年——もうひとつの「米騒動」像を求めて
-

労働〉運動」との連結は、どのようにして可能となるかという〈問い〉を立ち上がらせることでもあります。——そのような試みのためにの一つの手がかりとして、08年度の「アンラーニング・プロジェクト」では、「E・アダモフスキ『反資本主義』入門」（伊香 祝子訳・明石書店・07）を〈註解〉することを、予定しています。

● 「見限りストリートの路上からの報告」——08年度の「アンラーニング・プロジェクト」は、他方で、それぞれの参加者の「資本主義」の見限り方とでもいうべきものを相互＝交換することを試みます。「資本主義を見限る」こと、それは、先にふれた「人々の生の基本的な条件を満たせなくなっている」「賃労働によって生活を支える仕組み」と「人々の基本的な『生の保障』を満たせなくなっている社会保障の仕組み」とのはざまを生きる、言い換えれば、路頭／街頭／路上を生き抜こうとすることです。むろんいうまでもなく、私の路上とあなたの路上とが直ちに連結できるわけでもなく、いわんや私の路上を生きることとあなたの路上を生きることが簡単に連結できるわけでもありません。私・たちの路上——それを生きることに向かうことこそ、「資本主義を見限る運動」としての「生・労働・運動」です。——08年度の「アンラーニング・プロジェクト」の一つの軸として、上でふれたような意味でのそれぞれの人の路上からの報告を相互＝交換しあうことを試みます。例えば、「反G8行動」参加報告／「反貧困フェスタ」参加報告／「青い芝行動綱領」再訪報告／ホームレス支援参加報告／『米騒動』から90年」企画報告／「70・7・7 華青闘告発」再訪報告などなど、そして、なによりも「〈生〉労働運動」／〈生労働〉運動の現場探訪報告というように。

なお、08年度「アンラーニング・プロジェクト」は、上でふれた「生・労働・運動」／「資本主義を見限る」／「見限りストリートの路上からの報告」を3つの軸として進め、その3つを絶えず循環させるという進め方をします。したがって、上記プログラムは、順序を示すものではなく、なにに取り組むのかを示すものです。

〈註〉

- (*1) その試みについては、「アンラーニング・プロジェクト—ニューズレター」「07.10月号」「12月号」「08.1月号」に、その要約があります。また、発言を収録したパンフレットを作成中です。
- (*2) 「G8を問う富山共同行動」の「G8を問う：第2回学習会」のための小倉利丸さんのレジュメから

生・労働・運動 ネット

富山市神通町3-5-3 TEL 076-441-7843

FAX 076-444-6093

E-mail: jammers@net-jammers.net